

年 組 名前：

問1

浅田さんが栽培している、

赤いスイートコーンの

名前を教えてください。

.....

問2

次の文章の①から⑧に

当てはまる言葉や数字を、

教えてください。

『赤いスイートコーンを

開発した会社によると、

実だけではなく、

①や②まで赤いのが特徴。

従来品種より③と④が

(2022年10月18日付 山梨日日新聞21面)

豊富に含まれている。調理は、⑤より、電子レンジを使うか、蒸したり⑥することを勧めている。

浅田さんは「⑦のような優しい甘さと、⑧とした食感が楽しめる」と説明した。

① ..... ② ..... ③ ..... ④ .....

⑤ ..... ⑥ ..... ⑦ ..... ⑧ .....

問3

10月下旬までに、何本の収穫量を見込んでいますか。

約 ..... 本



新品種「大和ルーージュ」が栽培されている畑 一都留市鹿留

収穫時期を迎えた赤いスイートコーン



〈小林 諒〉

赤いコーン甘々く

都留の農家 新品種を栽培

都留市鹿留の農業浅田一男さんが、同所の畑で赤いスイートコーン「大和ルーージュ」の栽培に取り組んでいる。

浅田さんは「目を引く色で味もおいしい。魅力を広めていきたい」と意気込んでいる。大和ルーージュは、奈良県天理市の種苗会社・大和農園が開発。同社によると、実だけでなく、芯やひげまで赤いのが特徴。従来品種より抗酸化力とアントシアニンが豊富に含まれているという。9月時点で日本種苗協会品種名鑑に赤いスイートコーンの登録はなく、開発は日本初という。ゆでると色や成分が溶け出すので、電子レンジを使うか蒸したり焼いたりすることを勧めている。炊き込みご飯やスープにしても赤色を楽しめ

るという。浅田さんは「サツマイモのような優しい甘さと、モチモチとした食感が楽しめる」と説明する。浅田さんは県内のバス運行会社に勤務していたが昨年、脚をけがして仕事を続けるのが難しくなり、退社。リハビリを兼ね、畑を借りて新規就農した。大和農園は試験栽培の目的で、全国約100軒の農家に種子を提供。県内では浅田さんと富士河口湖町の農家が、種子を譲り受けた。浅田さんは7月下旬から種植えを始め、現在は収穫時期を迎えている。10月下旬までの収穫量は約250本を見込む。15、16の両日には甲府・県立美術館で開かれたマルシェに出店し、数量限定で販売した。来シーズンには観光客や地元住民に向けた収穫体験も考えている。浅田さんは「多くの人に味わってもらえればうれしい」と話していた。